

理事会上程案について承認された。

10. 2022年度決算概算

現時点での未払支出があり概算となっている。会費収入が予算よりも増収である理由は、過年度会費（滞納分等の今年度収受）がプラスされて計上されているためであるとの説明があった。その他各項目について個別に補足説明があった。決算案を了承し、理事会に諮ることとした。

11. 2023年度予算案

2023年度事業計画骨子に沿って予算案を計画した。個別では、会費収入は170名減を想定して計上し、年会開催事業費は京都大学の会場費が有料となるため支出が増加している。また、2023年度から若手育成事業支出（全額引当金から拠出）が始まる。予算案を了承し、理事会に諮ることとした。

なお、引当金300万の取り崩しを含めないと単年度は300万円の赤字となるが、これは近い将来として解消すべきである。収入増・支出減について、具体的な検討を引き続き進める必要がある。

12. 理事会審議事項の確認

4/15理事会での審議事項、担当、資料などを確認した。

- 1) 名誉会員候補者の選出（星）
- 2) 各賞受賞者の決定（山路）
- 3) 研究奨励金支給対象者の決定（内野）
- 4) 選挙規則類の改正（杉田）
- 5) 若手活動運営委員会設立（下岡）
- 6) 「学生会員」への学術大会等巡検参加費補助（内野）
- 7) 2022年度事業実施概要（中澤）
- 8) 2023年度事業計画（岡田）
- 9) 2022年度決算概算（亀高）
- 10) 2023年度予算案（亀高）
- 11) 支部活動報告および承認（杉田）
- 12) 総会議案の決定（中澤）

13. 理事会報告事項の確認

4/15理事会での報告事項と担当、資料などを確認した。

14. その他

・京都大会巡検について
一部コースについて案内書原稿の取り下げと巡検実施取り止めの可能性がある。今後、行事委員会とLOCも交えて案内者と協議する。巡検案内書原稿については、地質学雑誌上でのカテゴリーを明確にし、「巡検案内書」として独立した形での公開やより上梓しやすい形とすべきではないかとの意見があった。編集委員会、行事委員会、LOC等とも意見交換し議論を進める。

監事コメント

（山本監事）地質学雑誌の電子化が財政に参与しているが会員減少もあり安心できないため財政については今後も留意されたい。若手育成事業費を計上しているのは学会の将来のために有益である。4/15は総会前の理事会であるので理事の出席者を管理して欲しい。理事としての職責を果たすために、今後も理事

の出席を促して欲しい。

（岩部監事）総会前の理事会では、選挙規則について理に対して分かり易い資料と説明をお願いしたい。韓国との関係については、会員の今後の行動に影響を与えるため、正確な情報をもとに理事会で十分に議論して頂きたい。電子化については冊子体印刷の取扱い等も含めて、今後も議論を進めて頂きたい。

以上

2023年5月19日

一般社団法人日本地質学会
会長（代表理事）岡田 誠
署名人 執行理事 中澤 努

2022年度 第10回執行理事会議事録

日程：2023年5月20日（土）13:00-16:30

【WEB会議】

出席：岡田 誠、杉田律子、星 博幸、中澤 努、緒方信一、内尾（保坂）優子、内野隆之、加藤猛士、

狩野彰宏、亀高正男、小宮 剛、高嶋礼詩、辻森 樹、矢部 淳、山口飛鳥

監事：山本正司、岩部良子

事務局 堀内

欠席：尾上哲治、松田達生、坂口有人

*定足数（過半数：10）に対し、執行理事15名の出席

*前回22-9（4/8）議事録案は改めて確認、承認された。

報告事項

1. 全体的報告

・全地連創立60周年記念誌への寄稿依頼があった。岡田会長執筆予定。執筆期日：6/16（金）

・防災学術連携携、関東大震災100年企画冊子への寄稿依頼があった。関東大震災で何が起きたか、その後の100年間における展開、変化、今後の課題について、A4版2ページ分、6/5締切。関東大震災以降沖積層の研究が進んだ経緯もあり、専門分野である中澤理事が執筆する。

・北海道支部神居古潭巡検（8/18-19実施予定。参加費：正会員（一般・シニア）：30,000円、正会員（学生会員）18,000円）に対して、メール審議の結果、学生会員への参加費補助を適用することとした。

・文部科学省・学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想（ロードマップ2023）策定に係る公募が開始された（5/12公募説明会、公募期間5/8-6/30締切）。従来は、学術会議からの重点研究から選択して文科省が公募していたが、今回はマスタープランでは示されないことから文科省独自で策定し公募することとなったとのことである。学会の役割は、大学・研究機

関からの応募テーマに関して、学会が支援している立ち位置となるため、地質学会からは応募しないこととした。

・IGC2024対応に関する現状について、学会からの会長メッセージを6月末の2nd_circular発表後にHPにて公開する予定。

・令和6年春の科学技術に関する褒章受賞候補者の推薦について、推薦資料を作成中。5/26締切。

2. 運営財政部会（亀高・加藤）

1) 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等>

・日本学術会議公開シンポジウム「有人潜水調査船の未来を語る」（6/17）への後援依頼があり、承諾した。

・青少年のための科学の祭典2022（22/6/11-23/2/5開催、地質学会後援）の実施報告があった。コロナ禍の影響により6会場が中止となり、計43会場で開催。来場者総数77,230名。

・青少年のための科学の祭典2023（6/10-24/1/21：全国44会場で開催）への後援依頼があり、承諾した。

・2023年日本地球化学会年会（9/21-23開催；於東京海洋大学）への共催依頼があり、承諾した

・地学オリンピック日本委員会主催、東アジアの高校生のための地学フェスティバル（8/31-9/3；於福岡県宗像市グローバルアリーナほか）への後援依頼があり、承諾した。

・山陰海岸ジオパークより、世界の地質遺産100選認定記念事業（5/14開催）への後援依頼があり、承諾した。

・蒲郡市生命の海科学館「第13回惑星地球フォトコンテスト入賞作品展」（1/28-4/9開催、地質学会共催）の実施報告があった。来場者数7,374名。

・令和5年度福島県教育委員会学芸員（地質学）採用選考の案内があった【→geoflash、ニュース5月号掲載】

<会員>

1. 今月の入会者：18名
正会員一般（5名）：石川泰己、隈 隆成、小北康弘、大谷彩夏、齊藤朱音

正会員学生（13名…2年バック：3名、3年バック：10名）：椿 陽仁、原山 翔、延原香穂、吉丸 慧、青柳治毅、荻原 誉、大畑颯人、河野駿輝、毛利元紀、星 輝、山崎陽生、山本秀忠、中島展之

2. 今月の退会者：1名

正会員一般：木村陽介

3. 今月の逝去者 なし

4. 2023年4月末会員数

賛助：27、名誉：37、正会員：3087 [一般：2118、シニア：856、学生会員：113] 合計3151（昨年比-72）

<会計>

・ワイリー社より2022年Island Arcロイヤリティの入金があった（¥2,263,403）。

<その他>

- ・定款・規則類の整理について(加藤):定款書式について整理した。今後は規則類の整理を事務局と共同で行っていく予定である。
- ・オンライン会員情報管理サイトについて(亀高):システム画面を会員に公開し、運用を開始した。選挙システムについても作業を進めている。
- ・業務監査を5/10(水)に実施した。財務状況、会計状況、執務状況、理事の勤怠状況、活動状況について問題ないことを監事に確認頂いた。
- 3. 広報部会(内尾・松田)
 - 1) 広報委員会(内尾)
 - ・白滝ジオパーク推進協議会事務局より、International Obsidian Conference Engaru 2023(23/7/3-6開催、JGASU後援)において、JGASU構成団体である地質学会ロゴマークの使用申請があり、許可した。
 - ・惑星地球フォトコンテスト作品展示会開催中(東京パークスギャラリー、上野公園; 5/16-5/28)
 4. 学術研究部会(辻森・尾上・高嶋・山口)
 - 1) 行事委員会(高嶋・山口)
 - ・2023京都大会準備状況(高嶋)

学術大会におけるダイバーシティロゴ(EDI, ECS)の周知の依頼が委員会からあった。各コンビナーに周知したい。/5月8日に委託運営業者と下見を実施した。会場使用の再編により会場費が減額できる可能性あり。吉田南1号館は情報展のみで使用する。/懇親会会場は国際交流ホールを予約。収容定員200名、会場費12.9万円。生協食堂はコロナ以降予約不可とのこと。コロナ対策により懇親会の定員厳守のため冗長性を持たせにくい。定員についてはLOCと要検討。/大会会場費用合計200万弱(懇親会会場費と情報展会場費を含む)。/巡検案内書:投稿済み8/9件、受理済み2件。
 - ・8回ショートコース(山口):「年代測定」をテーマに7/2(土)開催予定。講師:平田岳史(東京大学)、竹内 誠(名古屋大学)、5月号ニュース誌で広報予定。更なる周知をお願いしたい。10月に反響が多かった、応力解析(再講習)を予定している。
 - 2) 専門部会連絡委員会(尾上)
 - ・特になし
 - 3) 国際交流委員会(辻森)
 - ・特になし
 - 4) 地質標準化委員会(内野)
 - ・特になし
 5. 編集出版部会(狩野・小宮)
 - 1) 地質学雑誌編集委員会(小宮)
 - (1)編集状況報告(2023年5月19日現在)
 - ・2023年投稿論文:32[内訳]論説12(和文12)、ノート3(和文3)、レター3(和文3)、報告4(和文4、英文1)、フォト1(和文1)、討論1(和文1)、巡検案内書8
 - 査読中:35、受理済み:4
 - ・129巻:公開済み24、入稿・校正中3

- ・ノート1件が、オリジナリティについての査読意見により投稿者から取り下げがあった。掲載不可は現時点ではない。投稿ペースは昨年並(昨年計80篇)。
- (2)その他
 - ・地質雑誌のフォントサイズおよび論文末尾のコンプライアンス文章について(→審議事項へ)
 - 2) アイランドアーク編集委員会(狩野)
 - (1)編集状況報告

Vol.31では10編掲載済み、2023年投稿数26編、2022年受理数49編。進行中の特集号企画がないため、特集号提案を募集している。特集号は企画~編集作業等の負担、苦勞が多い。すでに公開済みの論文について、テーマ別にグループ化して特集号として構成する企画も良いのではないか。との意見があった。
 - 3) 企画出版委員会(松田)
 - 特になし
 6. 社会貢献部会(坂口・矢部・内野)
 - 1) 地学教育委員会(坂口)
 - 特になし
 - 2) 地質技術者教育委員会(坂口)
 - 特になし
 - 3) 生涯教育委員会(矢部)
 - 特になし
 - 4) 地震火山地質子どもサマースクール(星)
 - 特になし
 - 5) 地質の日(矢部)
 - ・オンライン普及講演会「日本の地質探訪—古生代から新生代まで」を5/13に実施した。ライブ視聴数平均215人(最高238人)。5/20現在の総視聴回数:1520回。視聴者アンケートでは、期待した小中高からの返答はなく、今後の課題と考えている。シニアの参加が多かった。
 - ・街中ジオ散歩in横浜(案内者:笠間友博理事)を5/14に実施した(応用地質学会および神奈川県立生命の星・地球博物館との共催)。当日参加者は18名(申込は27名)。天候不良を理由に子供連れの申込者の欠席があった。今後は地学教育学会等へも情報を発信していきたい。地元博物館ルートからの参加も多く見られ、地元との連携は重要であり今後も留意していきたい。来年度は既に見実施済みの「稲毛海岸」も含めて検討中。
 - ・惑星地球フォトコンテスト作品展示会を開催中(東京パークスギャラリー、上野公園; 5/16-5/28)
 7. その他執行业務の下に設置される委員会及び組織
 - 1) 利益相反マネジメント委員会(中澤)
 - 特になし
 - 2) 若手育成事業検討WG(内野)
 - ・2023年度研究奨励金については、支給対象者へ4/26に支給を完了した。
 - 3) 表彰制度検討WG(中澤)
 - 特になし
 8. 理事会の下に設置される委員会
 - 1) ジオパーク支援委員会(矢部)

- 特になし
- 2) 地学オリンピック支援委員会(坂口)
 - 特になし
 - 3) 支部長連絡会議(杉田)

今年の学術大会では支部長会議を対面開催したい。
 - 4) 地質災害委員会(松田)
 - ・関東大震災100年関連行事:オンライン講演会を準備中。(日時:9月30日(土)13-16時(予定)、講師:石渡 明(元地質学会会長)・井上公夫(砂防フロンティア整備推進機構)、講演時間1時間+15分質疑/名、休憩含め3時間、対象:地質学会会員優先、定員:上限150名、申込期間:9/1-9/22(金)17:00締切)
 - 5) 名誉会員推薦委員会(星)
 - 特になし
 - 6) 各賞選考委員会(中澤)
 - 特になし
 - 7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会(辻森)

改めて学術大会において、ダイバーシティロゴ(EDI, ECS)の周知を行事委員会に依頼した。行事委員会より各コンビナーに周知したい旨の回答があった。
 - 8) 連携事業委員会(中澤)
 - 特になし
 - 9) 法務委員会(中澤)
 - 特になし
 - 10) 若手活動運営委員会
 - ・若手巡検・研究集会 in 北海道 洞爺湖有珠山ジオパーク地域(7/8-9開催)の参加申込受付中(5/31締切)
 - 9. 研究委員会
 - 1) 南極地質研究委員会(委員長 大和田正明)
 - 特になし
 - 2) 法地質学研究会(委員長 川村紀子; 杉田)
 - 特になし
 - 10. その他
 - ・「地質系大学の研究教育支援に関する日本地質学会との意見交換会」を5/17にZOOMで開催した。14大学および執行业務(正副会長、正副常務、坂口)が出席。今後も継続することが望ましいと考え、6 or 7月末に次回を開催したい。大学再編によって理学系が全体に縮小する中で、さらに地学系の縮小が避けられない流れがあるが、基礎研究や国土保全の観点からも一定数の研究者・技術者を輩出する重要性がある。学会と大学、それに加えて地元の地質系公益団体と協働で、地学系への進学者を増やしたい。

審議事項

1. 巡検案内書の今後のあり方について(高嶋)

案内書を地質学雑誌から独立させてほしいとの、著者からの要望を受け、これまで寄せられている意見等も鑑み、案内書原稿の今後の

あり方について議論した。巡検案内書は、通常論文と異なり、巡検日が決まっております。論文投稿-査読-受理までの行程が厳しい。一方で地質学雑誌掲載の査読付き論文として取り扱うため研究業績となり、学術雑誌として質が保障されている観点からジオパークでも安心して活用できる等のメリットがある。

2023年京都大会の案内所は現在編集作業中であり、2024年山形大会分も、現行の運用に沿ってすでに執筆打診等開始されているため、当面は、巡検案内書は査読付き論文として現行通りとするが、投稿締切の前倒しを行い行程を改善したい。なお、今後の学会活動の魅力向上のためにも、巡検案内書のあり方、特別な規則の要否等々をWGを発足させて(WGリーダー：杉田副会長)、2025年熊本大会までに検討を進める。熊本大会LOCへも聞き取りを行っていく。また、WGでの議論の経緯は、会員に向けて公開、明示することを検討する。

2. 地質学雑誌のフォントサイズおよび論文末尾のコンプライアンス文章掲載に関する再検討ほか(小宮)

紙面節約、超過頁による著者負担軽減のために、引用文献欄の文字サイズを小さくすることが提案された(現行8.5→7ポイント)。現在は、完全電子化となっているので、ある程度小さい文字サイズでも許容できる。具体的な縮小サイズは今後検討を進める。あわせて、論文末尾のコンプライアンス文章も、各論文毎に明示する必要はないため、ニュース誌や学会HP等の目に触れやすい箇所へ掲載することとする。巡検案内書も著者が特に希望した場合は文末に記載することとする。

3. 地質学過去論文のJ-STAGE上のデータについて

J-STAGEで公開されている地質学雑誌の過去論文については、2003年(109巻)以前は画像データとして公開されており、WEB検索の対象とならない。文献としての利活用されにくい。検索対象とするためには、OCR作業を施した膨大なデータ整備が必要となる。経費や作業量を確認して今後の対応方針を検討する。

4. 総会の議案等確認(各議案説明者、議長、書記)

今回の追加事項である第5号議案運営規則および選挙規則の変更については杉田副会長が説明する。

監事コメント

(山本監事) 巡検案内書のあり方について活発に議論し、取りまとめの枠組みが示されたことは良いことと思う。今後の議論に期待したい。

(岩部監事) 巡検案内書は大会時だけでなく、ジオパーク等様々な方が今後長期にわたって活用される大切な文献であり、そのことも踏まえて、より良い検討を進めて頂きたい。

以上

2023年5月31日

一般社団法人日本地質学会
会長(代表理事) 岡田 誠
署名人 執行理事 中澤 努

2023年度 第1回執行理事会議事録案

日 程：2023年7月8日(土) 13:00-16:00

【WEB会議】

出席：岡田 誠、杉田律子、中澤 努、緒方信一、内尾優子、内野隆之、尾上哲治、加藤猛士、狩野彰宏、亀高正男、小宮 剛、坂口有人、高嶋礼詩、辻森 樹、松田達生、矢部淳、山口飛鳥

監事：山本正司、岩部良子

欠席：星 博幸、

事務局 澤木

*定足数(過半数：10)に対し、執行理事17名の出席

*前回22-10議事録案は、本執行理事会にて承認された。

報告事項

1. 全体的報告

・全地連創立60周年記念誌への寄稿依頼については、岡田会長が執筆し投稿済み。

・防災学術連携体、関東大震災100年企画冊子「関東大震災100年と防災減災科学」(電子版)が完成した。

https://janet-dr.com/090_abroadandhome/KantohEQ100th_book_A4.pdf

2. 運営財政部会(亀高・加藤)

1) 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等>

・地学オリンピック日本委員会より、2023年度地学オリンピックへの協賛依頼があり、承諾した。協賛金4口、20万円送金予定。

・日本粘土学会より、第66回粘土科学討論会(9/12-13：於仙台市戦災復興記念館)への後援依頼があり、承諾した。

・新潟大学学術資料運営機構旭町学術資料展示館より、企画展示「みんなの石」展(7/19-8/31開催)への後援依頼があり、承諾した。

・日本学術会議地球惑星科学委員会地球・惑星圏分科会より、公開シンポジウム「オープンサイエンス時代における学術データ・学術試料の保存・保管、共有問題の現状と将来」(8/20オンライン)への後援依頼があり、承諾した。

・令和6年度科学技術分野の文部科学大臣表彰(科学技術省賞・若手科学者賞・研究支援賞)候補者推薦の依頼があった(学会締切7/3)【→geo-flash、ニュース掲載】

・第64回(令和5年度)東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦依

頼があった(学会推薦9/20)【→geo-flash、ニュース掲載】

・2023年度朝日賞(自然科学)の推薦依頼があった(学会締切8/3)【→geo-flash、ニュース掲載】

・第45(令和5年度)沖縄研究奨励賞推薦応募(学会締切9/5)【→geo-flash、ニュース掲載】

・大日本ダイヤコンサルタント株式会社より合併(大日本コンサルタントおよびダイヤコンサルタント)に伴う新会社名と役員体制の連絡があった。

<会員>

1. 今月の入会者(3団体、89名)→別ファイル参照

・賛助会員(3社)：山北調査設計株式会社、四国建設コンサルタント株式会社、日本海洋事業株式会社

・ジュニア会員(1名)：磯野聖隆

・正会員(88名)

▷正会員一般(9名)：青木 智、UHMB Tae-hoon、北村 暁、齋藤京太、寺内大貴、中川太陽、西山成哲、兵藤英明、森 啓悟

▷正会員学生(79名：会費種別不明3、単年度26、2年バック28、3年バック22)：會田幸樹、青木 夢葉、秋本悠作、荒岡柗二郎、安西剣太、飯島賢士、五十嵐大輝、壺岐美乃、石垣 璃、井上 梓、井口 祐輔、岩波知宏、上野智広、上野裕大、大植 和、大島温志、岡田直也、沖野峻也、中澤 周、越智輝耶、尾内千花、笠井佑樹、金澤安蓮、城戸太郎、小坂日奈子、小塚大輝、小林哉太、古明地海社、固本悠杜、坂本光瑠、佐々木航、塩原拓真、柴尾創士、Stengel Hannes、杉本峻平、杉山春來、關 秀彪、瀬戸山 功平、高橋美咲、武居史也、田代圭吾、千葉 明、長南龍治、唐強、鳥井夏希、長友大輝、中野美玖、中橋甲斐、奈良拓実、西村 玲、根本英利、野村夏希、長谷川凌平、服部 諒、濱田真実、早川万穂、早川由帆、林 里沙、坂東晃紀、FENG SHUAI、吹本樹、福岡仁至、福地亮介、松波亮佑、水戸悠河、宮崎一希、宮本真愛、村田理輝、森 大成、森田美穂、森山健一、安永裕紀、矢野滉紀、矢野稜真、山崎友莉、山本朱音、柚原涼花、横井雅範、渡邊聡士

2. 今月の退会者(3名)

・正会員シニア(2)：池田安隆、木下 修、
・正会員一般(1)：新山桃乃

3. 今月の逝去者(2名)

・正会員シニア(1)：中川雅之(逝去日：2023年4月28日)

・正会員一般(1)：田野崎隆雄(逝去日確認中)

4. 2023年6月末会員数

賛助：27、名誉：39、正会員：3096[一般：2143、シニア：848、学生会員：105]合計